



# やまがた雪未来 国スポ

## 一瞬の風になり叶えよ君の夢

第



### 第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会

2024年2月21日～2月24日の期間、山形県、最上町赤倉温泉スキー場・蔵王温泉アリオンテック蔵王シャンツェ・上山市坊平高原クロスカントリースキー場の3会場にて開催され、北海道選手団は原田雅彦総監督以下、総務1名、監督・コーチ17名、トレーナー1名、選手62名、計82名が天皇杯獲得を目指して参加しました。

暖冬となった今年は、降雪量が足りず競技の実施が危ぶまれる中、山形県実行委員会、その他関係者の皆様の多大なるご尽力のおかげで実施することができ、心より感謝申し上げます。

監督・コーチ・トレーナーの指導支援により選手皆さんが実力発揮し存分に活躍したことで、男女総合成績は175.50点とスキー競技会での天皇杯5連覇を達成、皇后杯は4位と健闘しました。



### 北海道選手団（成績）

#### スペシャルジャンプ

【成年男子A組】1位 佐藤慧一（雪印メグミルクスキー部）

2位 池田龍生（雪印メグミルクスキー部）

5位 藤田慎之介（FarmFujita）

【成年男子B組】1位 葛西紀明（チーム土屋）

3位 佐藤幸椰（雪印メグミルクスキー部）

7位 渡部弘晃（東京美装グループスキー部）

【少年男子組】1位 坂野旭飛（北海道下川商業高等学校）

2位 佐々木星語（札幌日本大学中学校）

3位 三上託摩（積丹町美国中学校）4位 杉山律太（北海道下川商業高等学校）

5位 岡部凜太郎（江別市立江別第三中学校）10位 西田蓮太郎（北海道下川商業高等学校）





### ノルディックコンバインド

【成年男子 A 組】9 位 千葉悠希 (日本大学) 10 位 千葉大輝 (日本大学) 13 位 池邊刀那 (札幌大学)  
 【成年男子 B 組】3 位 湊裕介 (ブレイズスキーチーム)  
 【少年男子組】2 位 森恢晟 (東海大学付属札幌高等学校)  
 12 位 廣波瑠海 (下川商業高等学校)

### ジャイアントスラローム

【成年男子 A 組】22 位 直江優作 (日本大学) 34 位 尾池諄海 (サッポロモイワジュニアスキークラブ) 36 位 佐藤大虎 (日本大学) 【成年男子 B 組】2 位 小林大郁 (株式会社北海道銀



行) 3 位 新賢範 (Brain) 26 位 増井勇也 (Brain) 【成年男子 C 組】1 位 及川貴寛 (Brain) 3 位 大村和哉 (阿寒湖温泉スキークラブ) 11 位 木内忠幸 (Brain) 【少年男子組】3 位 今村心温 (旭川明成高等学校) 10 位 山本遥 (北海学園札幌高等学校) 18 位 北村優弥 (東海大学付属札幌高等学校) 24 位 濱田一希 (小樽双葉高等学校) 57 位 藤田駿仁 (小樽双葉高等学校) DF 野澤雪丸 (札幌第一高等学校)

【成年女子 A 組】3 位 畠中悠生乃 (日本体育大学) 20 位 押切葵 (パドルクラブ) 39 位 松井芽 (日本女子体育大学) 【成年女子 B 組】14 位 村松晶子 (福井コンピューターアーキテクト) 【少年女子組】1 位 増田さくら (旭川明成高等学校) 11 位 堀川七桜 (旭川明成高等学校) 16 位 丸山愛季 (北照高等学校) 39 位 加藤もも子 (北照高等学校)



### クロスカンントリー

【成年男子 A 組】2 位 大田喜日向 (自衛隊体育学校) 6 位 小池駿介 (早稲田大学) 12 位 戸松秀斗 (法政大学) 【成年男子 B 組】2 位 児玉宗史 (JR 北海道スキー部) 9 位 蜂須賀優駿 (JR 北海道スキー部) 14 位 松村垂斗夢 (JR 北海道スキー部) 【成年男子 C 組】1 位 吉田圭伸 (東川町役場) 4 位 中島徹也 (名寄第 3 即応機動連隊) 【少年男子組】6 位 松本聖也 (北海道美幌高等学校) 7 位 前田航希 (北海道富良野高等学校) 19 位 石原徳 (北海道東川高等学校) 20 位 船場凱安 (北海道俱知安高等学校) 22 位 安藤功騎 (北海道俱知安高等学校) 32 位 小池祥平 (北海道富良野高等学校) 【成

年女子 A 組】3 位 栃谷天寧 (日本大学) 7 位 栃谷和 (日本大学) 12 位 竹内美琴 (自衛隊体育学校)

【少年女子組】10 位 菊池凜花 (北海道留萌高等学校) 11 位 金津美雪 (北海道富良野高等学校) 23 位 新井朝海 (北海道俱知安高等学校) DS 宮崎真衣 (北海道美幌高等学校)

【成年男子組リレー】4 位 児玉宗史・小池駿介・蜂須賀優駿・大田喜日向

【少年男子組リレー】4 位 松本聖也・安藤功騎・前田航希・石原徳

【女子組リレー】4 位 菊池凜花・金津美雪・栃谷和・栃谷天寧



## 全日本スキー技術選手権大会5連覇を達成して

小樽スキー連盟

武田 竜



SAJ 令和6承認第00423号

2024年3月全日本スキー技術選手権大会(以下、技術選)が北海道ルスツリゾートで行われ、前人未到の5連覇を達成することができました。

今大会に向かうにあたり特別な想いがありました。北海道ルスツリゾートが大会会場ということもあり、もう一度地元北海道で優勝したいという気持ちが強くありました。ここ数年の技術選は若手選手の台頭も目覚ましく、過去の優勝を振り返っても簡単に勝てた大会は一つもありません。後輩の成長は嬉しい反面、

まだ技術の差は大きいと自分の滑りで伝えていくことが今の自分に課せられている使命だと感じています。ただ、昨年4回の優勝を達成してから5連覇に向けて、気持ちの整理と大きな目標設定が必要でした。フィジカルトレーニングは継続的に行っていたものの、自分自身の気持ちがすっきり目標に向かうきっかけを探していました。

昨年10月にマテリアルチェンジをすることになり、一気に環境が変化し自分自身の中で何かが動き出した気がしました。アルペンレース時代に使用していたマテリアルを再び履くこととなり、当時の世界を目指していた頃のハングリーな気持ちを思い出し、より一層トレーニングに集中することができました。

一からフィジカルトレーニングはもちろん、滑りの組み立てを見直し、滑りの左右差など細かいチェックを繰り返し行い、高速よりも低速トレーニングと動きの再現性にこだわってトレーニングを行いました。技術選大会前には、整地トレーニング2割、コブのトレーニング8割の割合で専門のコーチを現地に招いて集中的にトレーニングを行いました。これまでにはない感覚や発見が大会前に得られたことは大きな自信になり、一番不安要素の大きかったコブ種目に対して万全な準備が出来ました。

今回の技術選は、これまでの大会の中で一番落ち着いて1種目1種目自分のペースで進められた気がします。課題にしていたコブ種目もスーパーファイナルで種目別1位を獲得することが出来ました。気づけば周りの選手と大きな点数差をつけて最終種目を迎え5度目の優勝を収めることができました。

優勝を重ねるたびに「重み」を感じるようになります。この重みは自分自身の「役割」やこれから「すべきこと」の責任の重さなのだと思います。また次への1年が始まりますが、自分自身へのチャレンジを恐れず、後輩達の先導者となれるようにまた精進していきたいと思っています。

最後に、北海道スキー連盟の皆様方のご声援とご協力により技術選5連覇を達成することができました。この場をお借りして御礼を申し上げます。これまで以上に努力を重ねて参りますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

# 2024 トヨタ FIS パラアルペンスキーワールドカップ札幌大会

札幌スキー連盟

大原 敏史



写真提供/日本障害者スキー連盟

FIS パラアルペンスキーワールドカップ札幌大会は、2月7日から16日まで、休息日を挟み前半にGSを2レース、後半SLを3レースという競技日程で開催、数多く大会を行ってきた中でサッポロテイネスキー場では一番期間の長い大会となりました。

今シーズンは、暖冬の影響を受けて、11月から翌1月まで例年より降雪が極端に少なく、コース内急斜面の人工降雪に苦慮しながらコースを造成、2月に入ってからの降雪による作業は異例でした。一方、2月11日は大雪のためコース

が造れず、残念ながらGS2戦目は中止となりましたが、他の競技日が実施できたことは奇跡的と思っています。担当されたテイネスキー場パトロール隊の皆さんに感謝いたします。

コース造成については、GS標高差が250m、SLが170mで行われました。通常大会と異なり、選手の安全確保の為、Bネット設置は競技用コースが基本ダブル(2重)、トレーニングコースはシングルとのことで、数量と設置期間がどのぐらい必要なのか、設置要領をどうするか不安な中で作業を行い、最終的に30mのBネット120本を設置、札幌スキー連盟で80本を用意し、阿寒湖畔スキー場から40本借用してカバーすることができました。コース造りはガチガチのアイスバーンではなくエッジグリップが可能なコースコンディションを目指し、天候に一喜一憂しながらピステンによる圧雪、夜間の水撒きを実施しました。

コース整備については、滑走ラインを含めて幅広く行う必要があります、そのためコース係の人員確保が必要となりました。長年パラワールドカップに携わってきたFISディレクターの指示で的確に行われたと思います。



写真提供/日本障害者スキー連盟

競技運営役員は、主要役員をSAJ、一般競技役員は札幌スキー連盟を中心に北海道スキー連盟からも応援



写真提供/日本障害者スキー連盟

を頂きましたが、札幌市内3高校のスキー部員の協力を得ることが出来ました。競技運営は健常者のレースとほとんど変わらずに実施、選手の安全確保が心配されましたが、選手の技術レベルは非常に高く、ブラインド選手と誘導者との息の合った滑走技術など、なかなか見る事の出来ないパラスポーツの感動を共有することができました。さらに多くの人が観戦し応援できる環境と機会が必要であると感じました。

### 苫前スキー連盟

苫前スキー連盟教育部・事務局長 秋山貴人

苫前スキー連盟は、道北日本海に面する苫前町において昭和58年12月に設立し以来41年間、規模は小さいながらもロープリフトのみの苫前地区・古丹別地区の2スキー場を拠点に、スキーを通じて町民の健康づくり、心と体づくりに寄与してきました。

当連盟は、教育部に功労スキー指導員、指導員、準指導員の有資格者13名、SAJ1級など一般会員8名が在籍する21名(令和6年5月現在)の小さな地区連盟ですが、平田日出男会長のリーダーシップの下、田井嘉久教育部長を中心に「技術とともに心を伝える」を旨とする志と熱意ある指導者・一般会員の献身的なご協力と、地域の方々によるボランティア協力もいただき、ジュニア・一般者を対象とするスキー教室、級別・ジュニアバッジテスト、バッジテスト対策講習の他、町教委と連携をとりながら町内2小学校および道立苫前商業高等学校のスキー授業への講師派遣を連盟教育部事業として行っているところです。

2024シーズンには、当連盟と苫前町体育協会との共催で従前より行ってきた冬遊びイベントについて、北海道スキー連盟普及振興事業としての事業採択を受けて、手厚いサポートと物資援助をしていただき、大きくバージョンアップをして開催をさせていただきました。

当日は、週末の夜にも関わらず、町内・近隣町村から幼児、小中高生、保護者、一般者など総勢70名もの多くの参加者をお迎えして、スキー・スノーボードでのポール滑走、怪獣着ぐるみ競争や肥料袋でのおしり滑り、最後は参加者全員でお餅・駄菓子まきを行い、大きな歓声と笑い声につつまれながら盛会裏に開催することができました。これまで、スキー場ではあまり見かけることがなかった子ども達やご家族連れの様子がたくさん見られたことが印象的でした。



Enjoy powder snow in 苫前三角点スキー場 の様子



ジュニアナイタースキー教室の様子

ジュニア・一般者を対象とするスキー教室、級別・ジュニアバッジテスト、バッジテスト対策講習の他、町教委と連携をとりながら町内2小学校および道立苫前商業高等学校のスキー授業への講師派遣を連盟教育部事業として行っているところです。

幼少期にキャンプなど自然環境下で大人達と楽しく遊んだ記憶は、その後の生き方や人格形成に大きく影響を与えられています。雪山で行われるウインタースポーツも同様です。ともにスキーをした子ども達がやがて大きくなり、家族を連れてスキー場に足を運んで楽しく遊んでくれたなら、スキー指導者になってゲレンデに戻ってきてくれたならどんなに素晴らしいことか。そんな未来を夢見ながら活動できることに幸せを感じつつ、私たちの思いを受けとめて受け継いでいってもらえるように、これからも活動を続けてゆく所存です。

## 北海道スキー連盟オフィシャルスポンサーシッププログラム

北海道スキー連盟では、スポーツ推進に関する事業を行い、スポーツを振興して、道民の体力向上とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に活動しております。この目的を達成するために、マーケティング委員会では「北海道スキー連盟オフィシャルスポンサーシッププログラム」として、北海道スキー選手権大会、強化合宿、普及事業等に活用する為に企業様にセールスを行い、2023-2024シーズンは、7社よりプログラムにご参加いただきました。

本連盟の活動へご賛同いただきました、スポンサー、ご寄附を賜りました各社、皆様に厚くお礼申し上げます。



### 【寄付金者様】

株式会社エゾデン 株式会社ジェイコム札幌 北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
アサヒ飲料株式会社 たきうち整形外科スポーツクリニック

## Enjoy Powder Snow キッズイベント

「FIS Bring Children to the Snow～子供たちを雪の世界へ」に賛同し、「北海道をスキー・スノーボードで元気に！」を合言葉に当連盟と全道各地の団体・各地のスキー連盟と連携して「Enjoy Powder Snow」を開催しました。



1. Enjoy Powder Snow in 枝幸三笠山・ゆきフェス 2024
2. Enjoy Powder Snow in こまどりスキー場
3. Enjoy Powder Snow in 苫前三角点スキー場
4. Enjoy Powder Snow in インクルーシブスキー イン モイワヤマ
5. Enjoy Powder Snow in 雪育デイキャンプ in るもい

本連盟にご協力・ご賛同いただきました全道各地の団体及び各地のスキー連盟様に厚くお礼申し上げます。活動の詳細についてはホームページより閲覧できます。

## 発行

公益財団法人 北海道スキー連盟 〒062-0904 北海道札幌市豊平区豊平4条5丁目1-18  
TEL: 011-820-1780 FAX: 011-820-1781 URL: <https://www.ski-hokkaido.jp/>